

# R6 年度高文連写真部会行事予定

## 6/4 フォトセミナー1 (水戸駿優教育会館)

プロの写真家による写真講習会です。例年、その年の県高校芸術祭の審査員予定者が招かれるので、その審査員の【好み】がわかるチャンスです。

## 8/9 photo ワークショップ (土浦 県南生涯学習センター)

1校2名まで参加できます。有名な写真家(ハービー山口さん、昨年の関東写真展の審査員で、福山雅治のジャケット写真、及び彼の写真の【師匠】としても知られています)から、マンツーマンでの指導が受けられます。

(見栄えのする写真を撮るための一工夫など)

## 9/26 県高校芸術祭写真展 一次審査エントリー締め切り

(2Lサイズでの提出です。1名1作品のみ)

## 10/3 一次審査 (1校9作品まで2次審査=本選に進出、進出者は入選確定)

## 10/28 二次審査 (つくば美術館に一次審査通過者の作品が大サイズで展示されます。約400~500作品から全国代表10作品、関東代表20作品が選出)

## 10/30 フォトセミナー3 (つくばカピオ)

県芸術祭写真展上位入賞者の表彰式、講評会で、写真展の入選者は参加できます。(最大9名)

## 12/6 フォトセミナー2 (ひたち海浜公園)

※ロッキンジャパン開催のため9月は実施不可となりました  
撮影会を行います。後日、作品コンテストがあります。

12月にweb写真展のエントリーあり、県芸術祭写真展に出品しなかった写真(一般の部)とフォトセミナー2の時に撮影した写真(フォトセミナーの部)でそれぞれ審査が行われ、入賞者が表彰されます。

県芸術祭写真展に出品する作品は夏休み終了までに各自目星をつけておく。(多数あることが望ましい。セレクションで絞り込みます。)組写真は作成に少し時間がかかるので、その可能性まで考えて、早めに写真データをこちらまで持ってきてくれるとじっくり作品制作ができます。タイトリングについても同様です。

## 写真部員へのワンポイントアドバイス

- ① 自分があとで見て【面白い、もう一度繰り返し見たい】と感じるような写真が写真展や写真コンテストで評価される写真です。仲の良い友達がピースサインをしている写真など、知らない人が見てもまったく面白くないです。（後ろで、変顔でもしている人などが写っていれば、別ですが）
- ② その写真で何を伝えたいのか？そのテーマがはっきり見て取れる写真が【相手に撮影意図が伝わるよい写真】です。そして、それをはっきりさせるために付けられるのが写真の題名（タイトル）です。だから、タイトルもかなり重要な要素です。
- ③ 撮影した写真のデータは多く保存しておきましょう。（少なくとも 300 以上）撮影直後はあまりよくないと思っても、後で見直すと、予期せず面白いものが写っていたりもしますし、一部を切り取ったり、他の画像との組み合わせたりすると、見違えるように生き返ったりすることもあります。撮影後すぐ消去はしないように。
- ④ ともかく、いつでもなるべく多くの写真を撮りましょう。常に撮影を意識していれば【ハプニングショット】をものにできる可能性もあります。（驚く暇があるのなら、シャッターを押すぐらいの気持ちで・・・、ただし、他人のプライバシーや尊厳は侵さないように！）
- ⑤ どんな初心者でもある程度の意識をもって 200 カット以上も撮影すれば、1 カットぐらいは必ず【使える写真】は含まれてきます。（だから、セクションが重要な作業になります）ともかく、多く写真を撮らなきゃ何も始まりません。
- ⑥ スマホだから良い写真が撮れないというわけではありませんが、もしも立体感の（＝奥行き）を強く出したかったり、細かい色彩やコントラストの違いを強調する写真をつくりたいのなら、一眼レフの使用をお勧めします。
- ⑦ 何を被写体にしたらわからないという声をよく聞きます。一応、入賞しやすい（＝見栄えする写真になりやすい）被写体として知られるのは、子供、老人、動物（含む鳥や虫）などで、自然さや作為性のなさを前面に打ち出した作品にするのならお勧めです。凝った写真を作るのなら撮影者がまず【企画をプロデュース】することが必要になります。